



## ネパール人研修生と触れ合う

**ネ** パールからの研修生と交流し国際理解を深めようと、大石田小学校で交流事業が行われました。ネパール人研修生のマダン・ライさんとブラミナ・ライさんは今年4月から鷹巣地区の地福寺に滞在して、日本で学んだ技術を出身地ズピン村へ持ち帰るため、マダンさんは陶芸を、ブラミナさんは織物を学んでいます。

交流事業は学年ごとに3日間に分けて行われ、12月9日(水)は2人の研修生と地福寺住職の宇野全国さんが学校を訪れ、1・2年生、3・4年生の児童との交流会が行われました。1・2年生との交流会では「じゃんけん列車」などのゲームをしたりネパール語の歌にあわせて踊ったりして楽しみました。また3・4年生児童との交流会ではネパールの食生活や4月に起きた地震からの復興の状況などについて積極的に質問していました。

## 伝統芸能を堪能

**開** 校5周年を記念して12月1日(火)に大石田北小学校で能楽公演が開催され、児童や地域の方が伝統芸能の世界を堪能しました。能楽公演を行ったのは「梶風会」小島英明代表の20人で、狂言「柿山伏」と能「羽衣」が披露されました。「柿山伏」は柿を盗み食いしていた山伏が、柿の木の持ち主から、猿やからすのまねをさせられてからかわれるという内容で、山伏のしぐさや表情に会場からは絶えず笑いがおこっていました。「羽衣」は天人が羽衣を返してもらって代わりに舞を踊るという内容で、子どもたちは面をつけて舞う天人の姿に真剣に見入っていました。児童の一人は「柿山伏は国語の教科書にも載っていたけれど、実際に演じているのを見ると迫力があって面白かった」と話していました。



## 手作りメニューで収穫祝う

**大** 石田南小学校の6年生が自分たちで植え付けと収穫をした自然薯を使った料理で、収穫感謝祭を11月25日(水)に開きました。この日は6年生19名が祖父母らと一緒に作った自然薯料理を食べながら、植え付けや収穫作業に協力した大石田新作物開発研究会(海藤明会長)のメンバーや村山産業高校農業科の生徒も招いて収穫を祝いました。テーブルには自然薯を生地に練りこんだお好み焼きや団子、餃子など6種類の自然薯料理、祖父母らが持ち寄った各家庭の漬け物などが並び、村山産業高校農業科の生徒が開発した自然薯パンも振舞われました。児童らは自分たちで作った手作りの自然薯料理の出来栄に満足げな様子で、祖父母らと楽しく収穫を祝っていました。



# ニュース 玉手箱

身近なできごとや楽しい話など、広報紙で紹介したい話題をお気軽にお寄せください。町のホームページの「早耳通信」でも、大石田町のいろいろな話題を紹介していますので、ぜひご覧ください。

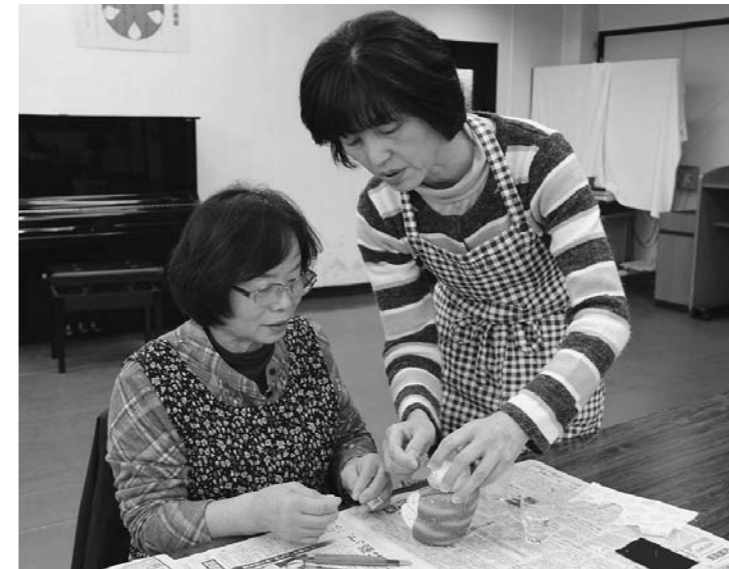
<http://www.town.oishida.yamagata.jp>

■総務企画課 総務グループ TEL 35-2111 内線218



## 楽しくものづくり

**き** らめき女性セミナーが、11月29日(日)に福祉会館第1研修室で行われました。このセミナーは、女性を対象に交流しながらものづくりの体験をしてもらおうと毎年行われているもので、今回は町内から30人が参加し、吉田弘美さん(東町)の指導のもと、来年の干支「申」の木目込み人形づくりに挑戦しました。木目込み人形づくりは桐の粉を固めて作った「申」の型に、溝に沿ってのりをつけ、そこに緑や白、金色などのあざやかな色の布をへらや竹串などで押し込み、人形を作っていくというもので、参加者は、周りの人と会話を楽しみながら、真剣に取り組んでいました。参加者の一人は「カーブに沿ってしわを伸ばしながら布を張っていくところが難しい。世界に一つだけの人形なので、玄関に飾って新年を迎えたい」と話していました。



## オーケストラと競演

**山** 響ふれあいコンサートin大石田が12月9日(水)に福祉会館で開催され、町内の小中学生も参加してコンサートを盛り上げました。これは大石田町新町発足60周年を記念して開催されたもので、ほぼ満員となった大ホールで山形交響楽団がモーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」序曲やベートーヴェンの交響曲第5番「運命」などを演奏しました。

コンサートの最後には、町内3小学校の6年生と大石田中学校2年生の児童・生徒約150名がステージ前に立ち、オーケストラの演奏にあわせて「ふるさと」、「翼をください」、「ピリブ」を合唱しました。詰め掛けた観客は優雅なオーケストラの響きや息の合った小中学生の合唱に聞き入っていました。

